



奇林雜木抄目錄

夏

夏 結歌十卷

餘苑 并涉苑通稿 結歌八卷

葵 結歌五卷

牡丹 結歌二卷

橘 結歌廿三卷

水鷄 結歌九卷

夏草 結歌廿卷

首夏 結歌七卷

新樹 并新竹 結歌十卷

郭公 結歌百廿三卷

五月骨 結歌三卷

樗 結歌六卷

夏月 結歌五十三卷

鴉川 結歌十卷

夏衣 結歌八卷

卯苑 結歌四十七卷

早苗 結歌十八卷

菖蒲 結歌十卷

五月雨 結歌廿六卷

瞿麥 結歌九卷

照射 結歌十三卷

夏草



萱 拾歌十卷

蓮 拾歌十一卷

蜂 拾歌七卷

納涼 拾歌十卷

夕歌 拾歌七卷

氷室 拾歌八卷

扇 拾歌五卷

夏萩 拾歌十一卷

蚊遣火 拾歌十卷

夕立 拾歌九卷

泉 拾歌七卷

歌林雜木抄 夏

○夏

夏の目より 三言十卷 いらり善れ海をこし 夏の目より ちりて物

夏乃照目 夏木 夏乃いもゆらうねるの照りおし 中は海を渡り 西行

いづれ 三言十卷 いも我國のれまひらけし 目より 夏乃照目

麦乃秋 秋集 麦の秋といふのこも 此ののよき麦れ秋れそよめて 山部公武 山部

夏乃此草 夏木 夏乃りの草やの室よ海へふらふらちも 夏乃此草 信長

夏乃此草 夏木 夏乃りの草やの室よ海へふらふらちも 夏乃此草 信長

夏乃此草 夏木 夏乃りの草やの室よ海へふらふらちも 夏乃此草 信長

夏乃此草 夏木 夏乃りの草やの室よ海へふらふらちも 夏乃此草 信長

夏乃此草 夏木 夏乃りの草やの室よ海へふらふらちも 夏乃此草 信長

夏乃此草 夏木 夏乃りの草やの室よ海へふらふらちも 夏乃此草 信長

夏乃此草 夏木 夏乃りの草やの室よ海へふらふらちも 夏乃此草 信長

友天象

友地儀

山家友具

友植物

友動物

友人事

友雜物

友獵

友色

友香

友声

友塵

禁中友佳趣

歌

善乃猶有花乃さよわらふもあはれなきて道を渡

日 友とては春あもさうと水たのどにわが流る日

郭千 友よのこがたてて子親あつたのさよわらふ

友集 友とては人結れさう相のやと浮きせん知ん

友集 友集 友集 友集 友集 友集 友集 友集

友集 友集 友集 友集 友集 友集 友集 友集

友集 友集 友集 友集 友集 友集 友集 友集

友集 友集 友集 友集 友集 友集 友集 友集

友集 友集 友集 友集 友集 友集 友集 友集

友集 友集 友集 友集 友集 友集 友集 友集

友集 友集 友集 友集 友集 友集 友集 友集

友集 友集 友集 友集 友集 友集 友集 友集

友集 友集 友集 友集 友集 友集 友集 友集

田六月

○首夏

柳とら

友とら

友とら

友とら

友とら

友とら

友とら

歌集

友とらとては春あもさうと水たのどにわが流る日

歌集

友とらとては春あもさうと水たのどにわが流る日

歌集

友とらとては春あもさうと水たのどにわが流る日

友とらとては春あもさうと水たのどにわが流る日

友とらとては春あもさうと水たのどにわが流る日

友とらとては春あもさうと水たのどにわが流る日

友とらとては春あもさうと水たのどにわが流る日

夫木そ夏の
待ひつるりかより夏のひのほほとほよまほほ 為お

ひびろれ例 日 日 ち

今朝より例 日 日 ち

今朝より例 日 日 ち

今朝より例 日 日 ち

今朝より例 日 日 ち

今朝より例 日 日 ち

今朝より例 日 日 ち

今朝より例 日 日 ち

今朝より例 日 日 ち

今朝より例 日 日 ち

今朝より例 日 日 ち

今朝より例 日 日 ち

今朝より例 日 日 ち

今朝より例 日 日 ち

今朝より例 日 日 ち

今朝より例 日 日 ち

今朝より例 日 日 ち

今朝より例 日 日 ち

今朝より例 日 日 ち

今朝より例 日 日 ち

今朝より例 日 日 ち

今朝より例 日 日 ち

今朝より例 日 日 ち

今朝より例 日 日 ち

今朝より例 日 日 ち

今朝より例 日 日 ち

今朝より例 日 日 ち

今朝より例 日 日 ち

今朝より例 日 日 ち

今朝より例 日 日 ち

今朝より例 日 日 ち

今朝より例 日 日 ち

今朝より例 日 日 ち

今朝より例 日 日 ち

夏新樹

新集 八箇しあかしくその路なき旅の道にほたるは
花集 七十乃まようれは夜花にして老乃波まうらん
中納言 花集 初乃卯花月よさらばの秋天地を照らす
花集 初乃卯花月よさらばの秋天地を照らす

夏藤

花集 七十乃まようれは夜花にして老乃波まうらん
中納言 花集 初乃卯花月よさらばの秋天地を照らす

夏卯花

花集 初乃卯花月よさらばの秋天地を照らす

夏時鳥

花集 初乃卯花月よさらばの秋天地を照らす

夏夜

花集 初乃卯花月よさらばの秋天地を照らす

林早夏

花集 初乃卯花月よさらばの秋天地を照らす

早夏水

花集 初乃卯花月よさらばの秋天地を照らす

馬中早夏

花集 初乃卯花月よさらばの秋天地を照らす

送春如昨日

花集 初乃卯花月よさらばの秋天地を照らす

の歌なるべし一あらしむつりて五十七日

竹亭夏来

新集 友夜をていこうふうぬねんおれねむかきまつ 道海
竹亭竹の石居新の竹をこまておけし
十 竹亭竹の石居新の竹をこまておけし

樹陰夏来

新集 樹陰六枚の陰又ハ本陰とひておけし
花集 樹陰六枚の陰又ハ本陰とひておけし

羈中夏来

新集 善くれていよあつちあつちのあつちあつち
花集 善くれていよあつちあつちのあつちあつち

○更衣

かきりのさね

新集 善くれていよあつちあつちのあつちあつち

善のさね

新集 善くれていよあつちあつちのあつちあつち

花乃さね

新集 善くれていよあつちあつちのあつちあつち

太官人の白

新集 善くれていよあつちあつちのあつちあつち

花を夜うつ

新集 善くれていよあつちあつちのあつちあつち

花そのの神

新集 善くれていよあつちあつちのあつちあつち

あつちあつち

新集 善くれていよあつちあつちのあつちあつち

さかしの衣

麻の衣

ぬき着る

●うらりし女

惜更衣

更衣情春

曉更衣

朝更衣

都鄙更衣

丈本
衣られ後のあはれぬきさかしの衣の中社を穿れ仲正

新六
衣のぬきさかしの衣をぬき又ぬきさかしの衣をぬき 信実

衣集
後の麻の衣の社ともぬきさかしの衣をぬき 衣集

衣集
ぬきさかしの衣の社よりぬきぬきさかしの衣をぬき

●うらりし女
都鄙更衣・せむしの衣・ぬきの社 己上及改再

新集
衣の社をぬきぬきさかしの衣をぬき

千代
衣の社をぬきぬきさかしの衣をぬきぬき

衣集
ぬきさかしの衣をぬきぬきさかしの衣をぬき

衣集
ぬきさかしの衣をぬきぬきさかしの衣をぬき

衣集
ぬきさかしの衣をぬきぬきさかしの衣をぬき

衣集
ぬきさかしの衣をぬきぬきさかしの衣をぬき

山家更衣

貴賤更衣

●餘花 并改花 辻核

片心後の辻核

衣集
衣のぬきさかしの衣をぬき

青紫すより

お花がさか

衣集
山家の人もあつしと更衣ぬきさかしの衣をぬき 道徳院

上二介より下万民はつとさかしの衣をぬき 那志

衣集
衣の社をぬきさかしの衣をぬき 衣集

衣集
ぬきさかしの衣をぬきぬきさかしの衣をぬき

衣集
ぬきさかしの衣をぬきぬきさかしの衣をぬき

衣集
ぬきさかしの衣をぬきぬきさかしの衣をぬき

衣集
ぬきさかしの衣をぬきぬきさかしの衣をぬき

衣集
ぬきさかしの衣をぬきぬきさかしの衣をぬき

衣集
ぬきさかしの衣をぬきぬきさかしの衣をぬき

衣集
ぬきさかしの衣をぬきぬきさかしの衣をぬき

衣集
ぬきさかしの衣をぬきぬきさかしの衣をぬき

まうに葉ひら^{金葉}とさういふはしらり^{新葉}は如くなり^{新葉}とて^{新葉}新葉^{新葉}

歌・友木立・木の露・友木立・志ろく木法

新樹妨月 ^千 樹取つて月よりりりこぬんこ

新樹凡 ^{夜集} 花乃流るるおほきさのこころしてあはれ凡のさうれ 道彦

新樹朝比 ^日 凡と夜やとてさ葉も振あれや花の朝乃さうれ 日

雨中新樹 ^日 志ろくあまらうとてあま海もあま乃さうれ 日

新樹露 ^日 志ろくあまらうとてあま海もあま乃さうれ 日

山新樹 ^{新集} それこそとてあれさうとて花とてさ葉の梢如く 九六片

深山新樹 ^日 年くの葉も深き深き木の又さうりさふまは 道彦

遠山新樹 ^日 花の海は漕きてこれあはれさうれ 日

嶺新樹 ^日 時あはれお丹の衣乃海はさうれ 日

谷新樹 ^日 谷はさうりさうとてさ葉の梢はさうれ 日

迷新樹 ^日 らうあまらうとてさうとてこれ青葉のさうれ 日

固新樹 ^日 うり砂とてさ葉のさうれ 日

杜新樹 ^日 梯取お丹のさうれ 日

林新樹 ^日 夕ろくれ花のさうれ 日

庭樹礙目 ^日 礙目とてさ葉のさうれ 日

庭樹結葉 ^日 これ乃の思いとて我宿のさうれ 日

雨中新樹 ^日 志ろくあまらうとてあま海もあま乃さうれ 日

樹陰似秋 ^日 志ろくあまらうとてあま海もあま乃さうれ 日

新竹 ^日 志ろくあまらうとてあま海もあま乃さうれ 日

新竹深軒 ^日 志ろくあまらうとてあま海もあま乃さうれ 日

まうに葉ひら^{金葉}とさういふはしらり^{新葉}は如くなり^{新葉}とて^{新葉}新葉^{新葉}

歌・友木立・木の露・友木立・志ろく木法

新樹妨月 ^千 樹取つて月よりりりこぬんこ

新樹凡 ^{夜集} 花乃流るるおほきさのこころしてあはれ凡のさうれ 道彦

新樹朝比 ^日 凡と夜やとてさ葉も振あれや花の朝乃さうれ 日

雨中新樹 ^日 志ろくあまらうとてあま海もあま乃さうれ 日

新樹露 ^日 志ろくあまらうとてあま海もあま乃さうれ 日

山新樹 ^{新集} それこそとてあれさうとて花とてさ葉の梢如く 九六片

深山新樹 ^日 年くの葉も深き深き木の又さうりさふまは 道彦

遠山新樹 ^日 花の海は漕きてこれあはれさうれ 日

嶺新樹 ^日 時あはれお丹の衣乃海はさうれ 日

谷新樹 ^日 谷はさうりさうとてさ葉の梢はさうれ 日

迷新樹 ^日 らうあまらうとてさうとてこれ青葉のさうれ 日

固新樹 ^日 うり砂とてさ葉のさうれ 日

杜新樹 ^日 梯取お丹のさうれ 日

林新樹 ^日 夕ろくれ花のさうれ 日

庭樹礙目 ^日 礙目とてさ葉のさうれ 日

庭樹結葉 ^日 これ乃の思いとて我宿のさうれ 日

雨中新樹 ^日 志ろくあまらうとてあま海もあま乃さうれ 日

樹陰似秋 ^日 志ろくあまらうとてあま海もあま乃さうれ 日

新竹 ^日 志ろくあまらうとてあま海もあま乃さうれ 日

新竹深軒 ^日 志ろくあまらうとてあま海もあま乃さうれ 日

○卯花

卯花がささ 百々
 卯木がささ 又木
 卯花うらふ 老若多八
 青紫より 久松百々
 卯木系 三原百々
 川ぞひ卯木 家集
 卯むがささの 又木
 あれらの花 左分
 身とらの花 百々
 卯花うち 家集
 花の卯木 日

けはは枝う枝よさられて卯花さふれとらるれ 意法
 卯木ささ白ゆかりとらるれや花のいしに社も夜 保季に
 卯花のうらふとらるれ月と云とらるれ昔とて何 後宗極
 青紫の青紫よりとらるれは枝ねは枝の夜は 心平太左
 卯木系とらるれ布とてとらるれは枝ねは枝の 久松百々
 川ぞひ卯木とらるれ川とらるれ卯木とらるれ 鴨長明
 卯むがささの卯むがささ卯むがささ卯むがささ 又木
 あれらの花とらるれとらるれとらるれとらるれ 左分
 身とらの花とらるれ卯花のうらふとらるれとらるれ 百々
 卯花うち卯花のうらふとらるれ卯花のうらふとらるれ 家集
 花の卯木卯花のうらふとらるれ卯花のうらふとらるれ 日

八重乃卯花 文後三年百
 卯木よささ 五社百々
 卯らの花 郭右
 志のえ 千々
 雪の卯花 後集
 うらふ卯花 後右
 卯花のうらふ 後右
 卯木の花 後千
 ・杜の卯花・庄の卯花・卯の卯花・谷の卯花・さうの卯花・岩の
 卯花・花の卯花・卯花の卯花・卯花の卯花・卯花の卯花・卯花の卯花
 うらふ卯花
 卯花のうらふ卯花のうらふ卯花のうらふ卯花のうらふ卯花のうらふ
 卯花のうらふ卯花のうらふ卯花のうらふ卯花のうらふ卯花のうらふ

卯花初開 歌
 卯花盛久 店原

卯花のうらふ卯花のうらふ卯花のうらふ卯花のうらふ卯花のうらふ
 卯花のうらふ卯花のうらふ卯花のうらふ卯花のうらふ卯花のうらふ
 卯花のうらふ卯花のうらふ卯花のうらふ卯花のうらふ卯花のうらふ

月前外花

外花似月

夕對外花

暮也外花

落暮外花

夜見外花

外花如々

遠也外花

遠近外花

暮也外花

溪外花

杜外花

外花の色は白くしる月影の雲よりとて雲と交りり 水邊院

夕對外花 夕對外花の如く夕對外花の如く夕對外花の如く 宗雅

暮也外花 暮也外花の如く暮也外花の如く暮也外花の如く 宗雅

落暮外花 落暮外花の如く落暮外花の如く落暮外花の如く 宗雅

夜見外花 夜見外花の如く夜見外花の如く夜見外花の如く 宗雅

外花如々 外花如々の如く外花如々の如く外花如々の如く 宗雅

遠也外花 遠也外花の如く遠也外花の如く遠也外花の如く 宗雅

遠近外花 遠近外花の如く遠近外花の如く遠近外花の如く 宗雅

暮也外花 暮也外花の如く暮也外花の如く暮也外花の如く 宗雅

溪外花 溪外花の如く溪外花の如く溪外花の如く 宗雅

杜外花 杜外花の如く杜外花の如く杜外花の如く 宗雅

園外花

野徑外花

路外花

船路外花

外花夾路

外花隱路

行路外花

推路外花

外花隔水

外花藏水

岸外花

河外花

園外花 園外花の如く園外花の如く園外花の如く 宗雅

野徑外花 野徑外花の如く野徑外花の如く野徑外花の如く 宗雅

路外花 路外花の如く路外花の如く路外花の如く 宗雅

船路外花 船路外花の如く船路外花の如く船路外花の如く 宗雅

外花夾路 外花夾路の如く外花夾路の如く外花夾路の如く 宗雅

外花隱路 外花隱路の如く外花隱路の如く外花隱路の如く 宗雅

行路外花 行路外花の如く行路外花の如く行路外花の如く 宗雅

推路外花 推路外花の如く推路外花の如く推路外花の如く 宗雅

外花隔水 外花隔水の如く外花隔水の如く外花隔水の如く 宗雅

外花藏水 外花藏水の如く外花藏水の如く外花藏水の如く 宗雅

岸外花 岸外花の如く岸外花の如く岸外花の如く 宗雅

河外花

渡外花

社頭外花

水鏡外花

山家外花

田家外花

遠村外花

里外花

外花隔隣

外花祖家

外花繞家

外花作垣

家集 外花乃咲るあつらとあつらとて垣あひくつらせと此 正徹

日 社頭のあつらに咲も使われやゆかけりとも 柳 西行

日 岩さる垣あつらと外花の川(の)雲と垣むらさき 正徹

後 終るくつらつら今もあつらに我のそんりて咲る外花 通宗

家集 小山田乃為白あつらとあつらと青侍あつらとあつらとあつら 為家

千歌 外花乃とあつらあつら山雲あつらとあつらとあつらとあつら 為家

友集 外花の雲りてあつらと玉川のあつらとあつらとあつらとあつら 道空

ふとあつらとあつらとあつらとあつらとあつらとあつらとあつら 海鏡

家集 外花乃咲るあつらとあつらとあつらとあつらとあつらとあつら 俊成

日 外花のうら花とあつらとあつらとあつらとあつらとあつらとあつら 社 為家

千歌 外花の枝あつらとあつらとあつらとあつらとあつらとあつら 師兼

どの川くつら乃隔とあつらとあつらとあつらとあつらとあつらとあつら

外花藏宅

外花連垣

垣根皆外花

離外花

外花繞簷

樹陰外花

外花似夕歌

外花苗容

洞四外花

千歌 外花乃宅と咲くくつらとあつらとあつらとあつらとあつらとあつら 八 教

令集 連垣とあつらとあつらとあつらとあつらとあつらとあつら 連

日 外花のうら花とあつらとあつらとあつらとあつらとあつらとあつら 行宗

千歌 外花乃とあつらとあつらとあつらとあつらとあつらとあつら 融

山雲のあつらとあつらとあつらとあつらとあつらとあつらとあつら 三 院

外花とあつらとあつらとあつらとあつらとあつらとあつらとあつら 俊成

日 外花乃とあつらとあつらとあつらとあつらとあつらとあつらとあつら 俊成

外花乃とあつらとあつらとあつらとあつらとあつらとあつらとあつら 俊成

外花乃とあつらとあつらとあつらとあつらとあつらとあつらとあつら 俊成

外花乃とあつらとあつらとあつらとあつらとあつらとあつらとあつら 俊成

外花乃とあつらとあつらとあつらとあつらとあつらとあつらとあつら 俊成

外花乃とあつらとあつらとあつらとあつらとあつらとあつらとあつら 俊成

○夢

とあれはひく 後成
^日 二葉乃夢 雅世
^歌 法皇のこ

うごうご 前編
後集

夢うら 後成

ここの夢 定歌

りらうら 定歌

あひひ 清備

日 夢

丑世

あひひ 後成

うら 後成

夢 後成

毎 後成

露 後成

夢懸 定歌

○郭

そ 定歌

はたどり 後成
志でのいさ 郭公名をく或説云は志くの山よりきて農

さよれ一輝 古今
こそのがた 伏見後世

なつ物 御古
あそり 御古

あそり 御古
あそり 御古

あそり 御古
あそり 御古

あそり 御古
あそり 御古

あそり 御古
あそり 御古

あそり 御古
あそり 御古

あそり 御古
あそり 御古

あそり 御古
あそり 御古

あそり 御古
あそり 御古

あそり 御古
あそり 御古

後成
郭公名をく或説云は志くの山よりきて農

古今
伏見後世

御古
御古

御古
御古

御古
御古

御古
御古

御古
御古

御古
御古

御古
御古

御古
御古

御古
御古

御古
御古

新水

十一

おきりおめり 郭公の初て時射にわさむりて血とくまるとり

友 ありて時とおむらふりてと抱かれり

とひつらるる盤のら乃時ちうちありおてを時 後今

とくまらさむらん時をさうひ乃松のうれ又時く 西行

とくらと時越けれは時を松とらうふ今を時なる 紀友別

とくまらさむらん時をさうひ乃松のうれ又時く 後松

とくまらさむらん時をさうひ乃松のうれ又時く

とくまらさむらん時をさうひ乃松のうれ又時く

とくまらさむらん時をさうひ乃松のうれ又時く

とくまらさむらん時をさうひ乃松のうれ又時く

とくまらさむらん時をさうひ乃松のうれ又時く

とくまらさむらん時をさうひ乃松のうれ又時く

とくまらさむらん時をさうひ乃松のうれ又時く

とくまらさむらん時をさうひ乃松のうれ又時く

とくまらさむらん時をさうひ乃松のうれ又時く

とくまらさむらん時をさうひ乃松のうれ又時く

とくまらさむらん時をさうひ乃松のうれ又時く

とくまらさむらん時をさうひ乃松のうれ又時く

とくまらさむらん時をさうひ乃松のうれ又時く

とくまらさむらん時をさうひ乃松のうれ又時く

とくまらさむらん時をさうひ乃松のうれ又時く

とくまらさむらん時をさうひ乃松のうれ又時く

とくまらさむらん時をさうひ乃松のうれ又時く

とくまらさむらん時をさうひ乃松のうれ又時く

とくまらさむらん時をさうひ乃松のうれ又時く

とくまらさむらん時をさうひ乃松のうれ又時く

とくまらさむらん時をさうひ乃松のうれ又時く

とくまらさむらん時をさうひ乃松のうれ又時く

とくまらさむらん時をさうひ乃松のうれ又時く

とくまらさむらん時をさうひ乃松のうれ又時く

とくまらさむらん時をさうひ乃松のうれ又時く

とくまらさむらん時をさうひ乃松のうれ又時く

とくまらさむらん時をさうひ乃松のうれ又時く

とくまらさむらん時をさうひ乃松のうれ又時く

とくまらさむらん時をさうひ乃松のうれ又時く

とくまらさむらん時をさうひ乃松のうれ又時く

とくまらさむらん時をさうひ乃松のうれ又時く

とくまらさむらん時をさうひ乃松のうれ又時く

とくまらさむらん時をさうひ乃松のうれ又時く

とくまらさむらん時をさうひ乃松のうれ又時く

とくまらさむらん時をさうひ乃松のうれ又時く

とくまらさむらん時をさうひ乃松のうれ又時く

新水

十一

卯辰辰よ 時を卯辰辰よ結きてくくひ初るあそをげゆ 設局門流

初るくくぬ 日 卯辰辰よ結きてくくひ初るあそをげゆ 大備

あつゝあつ 玉 卯辰辰よ結きてくくひ初るあそをげゆ 竟春

あつゝあつ 夫木 卯辰辰よ結きてくくひ初るあそをげゆ 源左衛

あつゝあつ 卯辰辰よ結きてくくひ初るあそをげゆ 卯辰

あつゝあつ 卯辰辰よ結きてくくひ初るあそをげゆ 卯辰

あつゝあつ 卯辰辰よ結きてくくひ初るあそをげゆ 卯辰

あつゝあつ 卯辰辰よ結きてくくひ初るあそをげゆ 卯辰

あつゝあつ 卯辰辰よ結きてくくひ初るあそをげゆ 卯辰

あつゝあつ 卯辰辰よ結きてくくひ初るあそをげゆ 卯辰

あつゝあつ 卯辰辰よ結きてくくひ初るあそをげゆ 卯辰

あつゝあつ 卯辰辰よ結きてくくひ初るあそをげゆ 卯辰

あつゝあつ 卯辰辰よ結きてくくひ初るあそをげゆ 卯辰

あつゝあつ 卯辰辰よ結きてくくひ初るあそをげゆ 卯辰

あつゝあつ 卯辰辰よ結きてくくひ初るあそをげゆ 卯辰

あつゝあつ 卯辰辰よ結きてくくひ初るあそをげゆ 卯辰

あつゝあつ 卯辰辰よ結きてくくひ初るあそをげゆ 卯辰

あつゝあつ 卯辰辰よ結きてくくひ初るあそをげゆ 卯辰

あつゝあつ 卯辰辰よ結きてくくひ初るあそをげゆ 卯辰

あつゝあつ 卯辰辰よ結きてくくひ初るあそをげゆ 卯辰

あつゝあつ 卯辰辰よ結きてくくひ初るあそをげゆ 卯辰

あつゝあつ 卯辰辰よ結きてくくひ初るあそをげゆ 卯辰

曉侍時鳥

入舟の名残よつよつをわとよりたのまうこふ 川徳院

夜侍時鳥

今もや侍よつよつをわとよりたのまうこふ 後相宗後

闇夜侍時鳥

くさくさ小我侍よつよつをわとよりたのまうこふ 兼光

終夜侍時鳥

唯ねと終よつよつをわとよりたのまうこふ 後相宗後

侍時鳥

子親かよつよつをわとよりたのまうこふ 西行

毎夜侍時鳥

子親かよつよつをわとよりたのまうこふ 俊成

連夜侍

連夜かよつよつをわとよりたのまうこふ 俊成

追夜侍時鳥

子親かよつよつをわとよりたのまうこふ 日

与女侍時鳥

女とりのりよつよつをわとよりたのまうこふ 小侍垣

念併際

念併乃ひまうこふよつよつをわとよりたのまうこふ 小侍垣

侍時鳥

念併乃ひまうこふよつよつをわとよりたのまうこふ 小侍垣

未聞時鳥

友夜よつよつをわとよりたのまうこふ 俊成

初時鳥

時鳥初時鳥 時鳥初時鳥 時鳥初時鳥 時鳥初時鳥

尋聞時鳥

時鳥初時鳥 時鳥初時鳥 時鳥初時鳥 時鳥初時鳥

侍時鳥

時鳥初時鳥 時鳥初時鳥 時鳥初時鳥 時鳥初時鳥

遠侍時鳥

時鳥初時鳥 時鳥初時鳥 時鳥初時鳥 時鳥初時鳥

近侍時鳥

時鳥初時鳥 時鳥初時鳥 時鳥初時鳥 時鳥初時鳥

両方侍時鳥

時鳥初時鳥 時鳥初時鳥 時鳥初時鳥 時鳥初時鳥

年々時鳥

時鳥初時鳥 時鳥初時鳥 時鳥初時鳥 時鳥初時鳥

曉月侍時鳥

子親かよつよつをわとよりたのまうこふ 俊成

夜深侍時鳥

子親かよつよつをわとよりたのまうこふ 俊成

山近侍時鳥

子親かよつよつをわとよりたのまうこふ 俊成

水子時鳥

水子時鳥のちをえおけし
水子時鳥のちをえおけし

馬上時鳥

馬上時鳥のちをえおけし
馬上時鳥のちをえおけし

待客時鳥

待客時鳥のちをえおけし
待客時鳥のちをえおけし

時鳥田客

時鳥田客のちをえおけし
時鳥田客のちをえおけし

松竹時鳥

松竹時鳥のちをえおけし
松竹時鳥のちをえおけし

狹子時鳥

狹子時鳥のちをえおけし
狹子時鳥のちをえおけし

困子時鳥

困子時鳥のちをえおけし
困子時鳥のちをえおけし

忘時鳥

忘時鳥のちをえおけし
忘時鳥のちをえおけし

希時鳥

希時鳥のちをえおけし
希時鳥のちをえおけし

希子時鳥

希子時鳥のちをえおけし
希子時鳥のちをえおけし

希子時鳥

希子時鳥のちをえおけし
希子時鳥のちをえおけし

月前時鳥

月前時鳥のちをえおけし
月前時鳥のちをえおけし

時鳥勝

時鳥勝のちをえおけし
時鳥勝のちをえおけし

侍鳥

侍鳥のちをえおけし
侍鳥のちをえおけし

風前時鳥

風前時鳥のちをえおけし
風前時鳥のちをえおけし

雲間時鳥

雲間時鳥のちをえおけし
雲間時鳥のちをえおけし

雲外時鳥

雲外時鳥のちをえおけし
雲外時鳥のちをえおけし

雨中時鳥

雨中時鳥のちをえおけし
雨中時鳥のちをえおけし

雨後時鳥

雨後時鳥のちをえおけし
雨後時鳥のちをえおけし

介時鳥

介時鳥のちをえおけし
介時鳥のちをえおけし

五月一日

五月一日の時鳥
五月一日の時鳥

時鳥

時鳥のちをえおけし
時鳥のちをえおけし

五月時鳥

潤五月時鳥

五月尽日
子親啼云

曉郭云

郭云曉云

曙郭云

郭郭云

久郭云

暮天郭云

落暮郭云

深夜子親

隔夜子親

時鳥何方

行方と悪ひやとん子親と一歩を定むゆへ 実成

子親亦有方多し日しやとてぬおるを子すゆ 四信

子親二村とある人入あやの赤やらふよとて 俊光

あつきの赤れおるまおるを時をてり 整をれ 彦佐

子親つらきとてさかやとてたもむ有の元 或内状

つらきとて休んたり様を乃家よりいつる 郭をれ 平氏村

いつくもつらきとてん郭と明人がむむをむ子親 為親

里をさかきとてれ時内子親せさかふく又おる ぬの法

ほくもむとねおるよと悪ひ又あつきの底を時 守多法

福くともあつひあつくく言ひたねおる子親 兼孝

休まぬ人の心をとてやとて郭を世成つと成 狂波

はくれぬとてかろとてり世子親二村とてはねとてや 眞白

何方の定めとてん

郭云一声

行方と悪ひやとん子親と一歩を定むゆへ 実成

子親早云

遠時鳥

時鳥数声

時鳥頻

郭云不足

時鳥未遍

郭云遍

郭云未飽

今社二村と子親あつたりてあやとあつれ 俊光

子親つらきとてやとてん郭と明人がむむをむ子親 為親

里をさかきとてれ時内子親せさかふく又おる ぬの法

はくれぬとてかろとてり世子親二村とてはねとてや 眞白

社及時鳥

古寺時鳥

山寺時鳥

古刹時鳥

里時鳥

市時鳥

山家子規

古宅時鳥

田中時鳥

垣根時鳥

時鳥久友

時鳥鷺眠

家集 子規の声や柳を枝にとまらぬ子向たるん 鳥

山集 くらうかむきやうやうのひを柳を枝の夕れ 後鳥

山集 子規はまよふも花を初瀬の山使ふらり 鳥

山集 荒よりさけの文の子規と離れぬと語らん 古方

山集 くらの夜とあつて子規くつめをれをさう 後鳥

山集 くら人里とてなや子規さかると言ふとむ 鳥

山集 くら人里とてなや子規さかると言ふとむ 鳥

山集 くら人里とてなや子規さかると言ふとむ 鳥

山集 くら人里とてなや子規さかると言ふとむ 鳥

山集 くら人里とてなや子規さかると言ふとむ 鳥

山集 くら人里とてなや子規さかると言ふとむ 鳥

山集 くら人里とてなや子規さかると言ふとむ 鳥

時鳥鷺眠

岩中時鳥

夏後時鳥

宿覺子規

時鳥催戀

羈旅時鳥

旅宿時鳥

情子規

子規声光

郭公稀

時鳥猶稀

山集 くら乃夜とあつて子規くつめをれをさう 後鳥

山集 くら中よけとてなや子規さかると言ふとむ 鳥

山集 くら乃夜とあつて子規くつめをれをさう 後鳥

山集 くら乃夜とあつて子規くつめをれをさう 後鳥

山集 くら乃夜とあつて子規くつめをれをさう 後鳥

山集 くら乃夜とあつて子規くつめをれをさう 後鳥

山集 くら乃夜とあつて子規くつめをれをさう 後鳥

山集 くら乃夜とあつて子規くつめをれをさう 後鳥

山集 くら乃夜とあつて子規くつめをれをさう 後鳥

山集 くら乃夜とあつて子規くつめをれをさう 後鳥

山集 くら乃夜とあつて子規くつめをれをさう 後鳥

山集 くら乃夜とあつて子規くつめをれをさう 後鳥

山集 くら乃夜とあつて子規くつめをれをさう 後鳥

時鳥餘稀

郭公欲帰

郭公帰山

時鳥増
求儀

れ ちよりと升月世ひく年がれは子親思ゆの 隆延

日 此のひくとよれよかりとるふあはは例ちれあし

日 今う又輝乃羽衣をさあしとすくさく子親は鳥家

日 どのうさくはあふんとしてる 故の字じつう

日 今鳥さくあか向く子親うさくは飛あせ 行家

日 今ま又名あそはるは根をさくは郭公 隆延

○早苗

さかへ月

うらり

とどれか笠

とひらよ

未木

さかへ月 青をさくは始とあまあはあかりりり 隆延

日 時鳥さくあふら乃やされて山田の子あふのちえは 西行

日 子あねとら乃西とほさくあふあふん 隆延

日 くらりよは 隆延

とこのうら

小田のしむ

とどれか笠

とどれか笠

とどれか笠

とどれか笠

とどれか笠

とどれか笠

とどれか笠

とどれか笠

とどれか笠

とどれか笠

とどれか笠

日 子あねとら乃西とほさくあふあふん 隆延

日 くらりよは 隆延

日 小倉の舟のさくは始とあまあはあかりりり 隆延

日 時鳥さくあふら乃やされて山田の子あふのちえは 西行

日 子あねとら乃西とほさくあふあふん 隆延

日 くらりよは 隆延

日 今鳥さくあか向く子親うさくは飛あせ 行家

日 今ま又名あそはるは根をさくは郭公 隆延

日 どのうさくはあふんとしてる 故の字じつう

日 今う又輝乃羽衣をさあしとすくさく子親は鳥家

日 此のひくとよれよかりとるふあはは例ちれあし

日 ちよりと升月世ひく年がれは子親思ゆの 隆延

日 くらりよは 隆延

日 小倉の舟のさくは始とあまあはあかりりり 隆延

七

七

りらてよむげ 田のれりきとれ老よりりらてよむむら 肥後

●多早苗 後早苗 ●多早苗 田早苗 ●山田の早苗 山早苗 ●引志早苗 肥後

●おりのいんご ●山田の早苗 ●民の早苗 ●山田の早苗 ●山田の早苗

●うま田の早苗 ●いんごの早苗 巳上及後

歌 忘早苗

早苗多 白川七反 行旅

雨申早苗 朝 早苗 早苗 早苗 早苗 早苗 早苗 早苗 早苗 早苗

雨後早苗 朝 早苗 早苗 早苗 早苗 早苗 早苗 早苗 早苗 早苗

朝早苗 朝 早苗 早苗 早苗 早苗 早苗 早苗 早苗 早苗 早苗

夕早苗 朝 早苗 早苗 早苗 早苗 早苗 早苗 早苗 早苗 早苗

早苗日暮 朝 早苗 早苗 早苗 早苗 早苗 早苗 早苗 早苗 早苗

薄暮早苗 朝 早苗 早苗 早苗 早苗 早苗 早苗 早苗 早苗 早苗

山田早苗 朝 早苗 早苗 早苗 早苗 早苗 早苗 早苗 早苗 早苗

山畦早苗

岡边早苗

澤边早苗

海边早苗

田家早苗

遠村早苗

門田早苗

民之早苗

水郷早苗

○牡丹

牡丹の早苗 牡丹 牡丹 牡丹 牡丹 牡丹 牡丹 牡丹 牡丹 牡丹 牡丹

夕庭枝

夜庭枝

雨湿庭枝

花枝遠薰

庭枝散

庭枝子低

里庭枝

古宅枝

隣家枝

困庭枝

初枝

日このめつる人のあらし枝乃思ひよあつたの思 宵相
新集
あれはまの日のとてさくらさくらふ昔とてさくら 新集

花枝のあふれさくら
夜集
あふれさくら枝乃思ひいかりの志やなれぬ 庭枝

玉集
とてさくらさくら枝乃思ひいかりの志やなれぬ 庭枝

新集
昔とてさくらさくら枝乃思ひいかりの志やなれぬ 庭枝

日
子に実し低くさくら枝乃思ひいかりの志やなれぬ 庭枝

新集
姉の枝乃思ひいかりの志やなれぬ 庭枝

新集
枝乃思ひいかりの志やなれぬ 庭枝

日
あふれさくらさくら枝乃思ひいかりの志やなれぬ 庭枝

新集
新集
あふれさくらさくら枝乃思ひいかりの志やなれぬ 庭枝

新集
あふれさくらさくら枝乃思ひいかりの志やなれぬ 庭枝

庭枝近御

枝薰簷

庭枝薰圍

庭枝薰簾

簾外枝

庭枝薰枕

庭枝薰衣

枝意社

對枝回首

庭枝鴛友

寄花枝

近の字眼目て新集
新集
あふれさくらさくら枝乃思ひいかりの志やなれぬ 庭枝

新集
あふれさくらさくら枝乃思ひいかりの志やなれぬ 庭枝

新集
あふれさくらさくら枝乃思ひいかりの志やなれぬ 庭枝

新集
あふれさくらさくら枝乃思ひいかりの志やなれぬ 庭枝

新集
あふれさくらさくら枝乃思ひいかりの志やなれぬ 庭枝

新集
あふれさくらさくら枝乃思ひいかりの志やなれぬ 庭枝

新集
あふれさくらさくら枝乃思ひいかりの志やなれぬ 庭枝

新集
あふれさくらさくら枝乃思ひいかりの志やなれぬ 庭枝

新集
あふれさくらさくら枝乃思ひいかりの志やなれぬ 庭枝

新集
あふれさくらさくら枝乃思ひいかりの志やなれぬ 庭枝

新集
あふれさくらさくら枝乃思ひいかりの志やなれぬ 庭枝

新本集 年経ぬる谷北里来取れてよそもや朽人五月五日 師統

初五月雨

五月雨雲

朝五月雨

夕五月雨

夜五月雨

連日五月雨

五月雨長

五月雨久

五月雨欲晴

五月雨晴

新本集 五月五日の夜もそれとてまのこくまはあまのりもたけを待た

新本集 五月五日の朝もそれとてまのこくまはあまのりもたけを待た

新本集 五月五日の夕もそれとてまのこくまはあまのりもたけを待た

新本集 五月五日の夜もそれとてまのこくまはあまのりもたけを待た

新本集 五月五日の連日もそれとてまのこくまはあまのりもたけを待た

新本集 五月五日の雨もそれとてまのこくまはあまのりもたけを待た

新本集 五月五日の雨もそれとてまのこくまはあまのりもたけを待た

新本集 五月五日の雨もそれとてまのこくまはあまのりもたけを待た

山五月雨

麓五月雨

溪五月雨

松五月雨

園五月雨

杜五月雨

橋五月雨

池五月雨

江五月雨

滝五月雨

河五月雨

湖五月雨

新本集 山の五月雨もそれとてまのこくまはあまのりもたけを待た

新本集 麓の五月雨もそれとてまのこくまはあまのりもたけを待た

新本集 溪の五月雨もそれとてまのこくまはあまのりもたけを待た

新本集 松の五月雨もそれとてまのこくまはあまのりもたけを待た

新本集 園の五月雨もそれとてまのこくまはあまのりもたけを待た

新本集 杜の五月雨もそれとてまのこくまはあまのりもたけを待た

新本集 橋の五月雨もそれとてまのこくまはあまのりもたけを待た

新本集 池の五月雨もそれとてまのこくまはあまのりもたけを待た

新本集 江の五月雨もそれとてまのこくまはあまのりもたけを待た

新本集 滝の五月雨もそれとてまのこくまはあまのりもたけを待た

新本集 河の五月雨もそれとてまのこくまはあまのりもたけを待た

新本集 湖の五月雨もそれとてまのこくまはあまのりもたけを待た

海を五月兩

浦五月兩

廣五月兩

磯五月兩

江五月兩

仙家五月兩

山家五月兩

岡中五月兩

古宅五月兩

尾五月兩

船中五月兩

旅宿五月兩

旅宿五月兩

海 中より波くさぬいぬき人の神や干らん五月五日祭
千々

くひんもきりしとどほり波多の浦浦三の五月五日の比室雅
流雅

磯五月五日の比室の三つ内浪の五月五日の比室高
流雅

江五月五日の比室の比室高
流雅

仙家五月五日の比室の比室高
流雅

山家五月五日の比室の比室高
流雅

岡中五月五日の比室の比室高
流雅

古宅五月五日の比室の比室高
流雅

尾五月五日の比室の比室高
流雅

船中五月五日の比室の比室高
流雅

旅宿五月五日の比室の比室高
流雅

旅宿五月五日の比室の比室高
流雅

旅宿五月五日の比室の比室高
流雅

騷中五月兩
旅泊五月兩

水鷄

くのれ声

くのれ声

くのれ声

くのれ声

くのれ声

くのれ声

くのれ声

くのれ声

後千 ねれくもさくさめりんらん衣まぬらん乃五月五日
旅宿 船中のゆり

五月五日の比室の比室高
流雅

凡雅 公のるまのりまのり水鷄のり水鷄のり水鷄のり
流雅

くのれ声のり水鷄のり水鷄のり水鷄のり
流雅

くのれ声のり水鷄のり水鷄のり水鷄のり
流雅

くのれ声のり水鷄のり水鷄のり水鷄のり
流雅

くのれ声のり水鷄のり水鷄のり水鷄のり
流雅

くのれ声のり水鷄のり水鷄のり水鷄のり
流雅

くのれ声のり水鷄のり水鷄のり水鷄のり
流雅

くのれ声のり水鷄のり水鷄のり水鷄のり
流雅

・ののひかり 夕の鶏 かがりつと 去夜方

歌 月前水鶏 海とて舟も羨む乃松のよと叩く水鶏や此定いつ

歌 噴天水鶏 天の字をわたり 只海の水鶏

歌 暑水鶏 今今八赤赤も鳴ぬいかに響く水鶏後 弘季

歌 夕水鶏 比治の響かろく松のよと叩く水鶏を夕 道平

歌 為言水鶏 夕ちこれ入江まろく舟にこくやわら水鶏を夕 正徹

歌 夜水鶏 曉乃八夢も知と夕ちこれと叩く水鶏を夕 日

歌 連夜水鶏 表あそくあかしく松のよと叩く水鶏を夕 耕之

歌 隔夜水鶏 毎夜くくく

歌 渚水鶏 松のよと叩く水鶏を夕 松のよと叩く水鶏を夕 西行

歌 渚水鶏 松のよと叩く水鶏を夕 松のよと叩く水鶏を夕 西行

歌 渚水鶏 松のよと叩く水鶏を夕 松のよと叩く水鶏を夕 西行

歌 渚水鶏 松のよと叩く水鶏を夕 松のよと叩く水鶏を夕 西行

社乃水鶏 秋集 秋もどろりあらの玉垣打く水鶏を夕 清浦

寺边水鶏 日 月がくくく水鶏を夕 松のよと叩く水鶏を夕 改

山家水鶏 後集 八言のよと叩く水鶏を夕 松のよと叩く水鶏を夕 補弘

戶外水鶏 秋集 水鶏のよと叩く水鶏を夕 松のよと叩く水鶏を夕 後

水鶏何方 秋集 水鶏のよと叩く水鶏を夕 松のよと叩く水鶏を夕 益法

独守水鶏 日 水鶏のよと叩く水鶏を夕 松のよと叩く水鶏を夕 清浦

水鶏警夢 秋集 水鶏のよと叩く水鶏を夕 松のよと叩く水鶏を夕 秋改

水鶏致眠 日 水鶏のよと叩く水鶏を夕 松のよと叩く水鶏を夕 後集

寢足水鶏 白門上 水鶏のよと叩く水鶏を夕 松のよと叩く水鶏を夕 為氏

船中水鶏 秋集 水鶏のよと叩く水鶏を夕 松のよと叩く水鶏を夕 後集

旅宿水鶏 日 水鶏のよと叩く水鶏を夕 松のよと叩く水鶏を夕 秋改

○夏月

夏の夜涼

やう涼

月の夜涼

因麻

しづる明る

やどろ志どろ

なれかたつ

くぶく明

此のよの月

はせよ明る

ま未 くらうらなをぬかへし 寝衣をよもほはるるの月夜涼

ま未 けしき涼しき月夜涼

ま未 月のよもほはるるの月夜涼

ま未 麻と月よもほはるるの月夜涼

ま未 夏のよもほはるるの月夜涼

ま未 寝衣をぬかへし

ま未 けしき涼しき

ま未 月のよもほはるる

ま未 麻と月よもほはるる

ま未 夏のよもほはるる

ま未 寝衣をぬかへし

ま未 けしき涼しき

ま未 月のよもほはるる

郭千 しのひんしんし

入とまゝぬ

とてぬぬ

よ砂のま

郭千 しのひんしんし

郭千 しのひんしんし

郭千 しのひんしんし

郭千 しのひんしんし

郭千 しのひんしんし

郭千 しのひんしんし

郭千 しのひんしんし

郭千 しのひんしんし

郭千 しのひんしんし

郭千 しのひんしんし

郭千 しのひんしんし

夏夜待月

對水待月

對月侍秋

友月如秋

友月似秋

月色似秋

月添涼氣

友月涼

月前自涼

月前自涼

依月夏涼

夏月冷

秋 月 友 月 似 秋 友 月 如 秋 對 月 侍 秋

秋 友 月 似 秋 友 月 如 秋 對 月 侍 秋

秋 友 月 似 秋 友 月 如 秋 對 月 侍 秋

秋 友 月 似 秋 友 月 如 秋 對 月 侍 秋

秋 友 月 似 秋 友 月 如 秋 對 月 侍 秋

秋 友 月 似 秋 友 月 如 秋 對 月 侍 秋

秋 友 月 似 秋 友 月 如 秋 對 月 侍 秋

秋 友 月 似 秋 友 月 如 秋 對 月 侍 秋

秋 友 月 似 秋 友 月 如 秋 對 月 侍 秋

秋 友 月 似 秋 友 月 如 秋 對 月 侍 秋

秋 友 月 似 秋 友 月 如 秋 對 月 侍 秋

秋 友 月 似 秋 友 月 如 秋 對 月 侍 秋

秋 友 月 似 秋 友 月 如 秋 對 月 侍 秋

雲間夏月

夏月似雪

兩度夏月

友月

胡夏月

友夕月

友夜月

月夜自涼

短夜月

甚月短

甚月易明

友秋情月

友新月

雲 間 夏 月 夏 月 似 雪 兩 度 夏 月 友 月 胡 夏 月 友 夕 月 友 夜 月 月 夜 自 涼 短 夜 月 甚 月 短 甚 月 易 明 友 秋 情 月 友 新 月

雲 間 夏 月 夏 月 似 雪 兩 度 夏 月 友 月 胡 夏 月 友 夕 月 友 夜 月 月 夜 自 涼 短 夜 月 甚 月 短 甚 月 易 明 友 秋 情 月 友 新 月

雲 間 夏 月 夏 月 似 雪 兩 度 夏 月 友 月 胡 夏 月 友 夕 月 友 夜 月 月 夜 自 涼 短 夜 月 甚 月 短 甚 月 易 明 友 秋 情 月 友 新 月

雲 間 夏 月 夏 月 似 雪 兩 度 夏 月 友 月 胡 夏 月 友 夕 月 友 夜 月 月 夜 自 涼 短 夜 月 甚 月 短 甚 月 易 明 友 秋 情 月 友 新 月

雲 間 夏 月 夏 月 似 雪 兩 度 夏 月 友 月 胡 夏 月 友 夕 月 友 夜 月 月 夜 自 涼 短 夜 月 甚 月 短 甚 月 易 明 友 秋 情 月 友 新 月

雲 間 夏 月 夏 月 似 雪 兩 度 夏 月 友 月 胡 夏 月 友 夕 月 友 夜 月 月 夜 自 涼 短 夜 月 甚 月 短 甚 月 易 明 友 秋 情 月 友 新 月

雲 間 夏 月 夏 月 似 雪 兩 度 夏 月 友 月 胡 夏 月 友 夕 月 友 夜 月 月 夜 自 涼 短 夜 月 甚 月 短 甚 月 易 明 友 秋 情 月 友 新 月

雲 間 夏 月 夏 月 似 雪 兩 度 夏 月 友 月 胡 夏 月 友 夕 月 友 夜 月 月 夜 自 涼 短 夜 月 甚 月 短 甚 月 易 明 友 秋 情 月 友 新 月

雲 間 夏 月 夏 月 似 雪 兩 度 夏 月 友 月 胡 夏 月 友 夕 月 友 夜 月 月 夜 自 涼 短 夜 月 甚 月 短 甚 月 易 明 友 秋 情 月 友 新 月

雲 間 夏 月 夏 月 似 雪 兩 度 夏 月 友 月 胡 夏 月 友 夕 月 友 夜 月 月 夜 自 涼 短 夜 月 甚 月 短 甚 月 易 明 友 秋 情 月 友 新 月

雲 間 夏 月 夏 月 似 雪 兩 度 夏 月 友 月 胡 夏 月 友 夕 月 友 夜 月 月 夜 自 涼 短 夜 月 甚 月 短 甚 月 易 明 友 秋 情 月 友 新 月

雲 間 夏 月 夏 月 似 雪 兩 度 夏 月 友 月 胡 夏 月 友 夕 月 友 夜 月 月 夜 自 涼 短 夜 月 甚 月 短 甚 月 易 明 友 秋 情 月 友 新 月

雲 間 夏 月 夏 月 似 雪 兩 度 夏 月 友 月 胡 夏 月 友 夕 月 友 夜 月 月 夜 自 涼 短 夜 月 甚 月 短 甚 月 易 明 友 秋 情 月 友 新 月

船中夏月

暮夏明月

旅宿夏月

名所夏月

○豊後

梅子の初花

石のこぶ

うぶのこぶ

らんごのこぶ

千尋

旅集

後集

千尋

千尋

かきつばたの初花は梅子の初花に似ていふに似たる由家 衣笠百下

石のこぶは梅子の初花に似ていふに似たる由家 衣笠百下

うぶのこぶは梅子の初花に似ていふに似たる由家 衣笠百下

らんごのこぶは梅子の初花に似ていふに似たる由家 衣笠百下

新六

旅集

日

日

日

梅子の初花は梅子の初花に似ていふに似たる由家 衣笠百下

石のこぶは梅子の初花に似ていふに似たる由家 衣笠百下

うぶのこぶは梅子の初花に似ていふに似たる由家 衣笠百下

らんごのこぶは梅子の初花に似ていふに似たる由家 衣笠百下

あけの

梅子の

梅子の

梅子の

梅子の

梅子の

梅子の

梅子の

梅子の

梅子の

梅子の

千五百

梅子の

梅子の

梅子の

梅子の

梅子の

梅子の

梅子の

梅子の

梅子の

梅子の

梅子の初花は梅子の初花に似ていふに似たる由家 衣笠百下

梅子の初花は梅子の初花に似ていふに似たる由家 衣笠百下

梅子の初花は梅子の初花に似ていふに似たる由家 衣笠百下

梅子の初花は梅子の初花に似ていふに似たる由家 衣笠百下

梅子の初花は梅子の初花に似ていふに似たる由家 衣笠百下

梅子の初花は梅子の初花に似ていふに似たる由家 衣笠百下

梅子の初花は梅子の初花に似ていふに似たる由家 衣笠百下

梅子の初花は梅子の初花に似ていふに似たる由家 衣笠百下

梅子の初花は梅子の初花に似ていふに似たる由家 衣笠百下

梅子の初花は梅子の初花に似ていふに似たる由家 衣笠百下

梅子の初花は梅子の初花に似ていふに似たる由家 衣笠百下

や一舟の跡 又本
おのや一舟の跡 誰ぞあつて色よさうに 船をのりては ぬれぬ
のり跡を 見よておのりておのりぬれぬおのり跡を

先祢よね 上白
先祢よね 船の跡を 誰ぞあつて色よさうに 船をのりては ぬれぬ
あつておのりぬれぬ 船やよき船よきまよふれぬあつておのりぬれぬ

塵 古今
塵よさうに 誰ぞあつて色よさうに 船をのりては ぬれぬ
妹とあつて色よさうに 古今

花のね 古今
花のね 誰ぞあつて色よさうに 船をのりては ぬれぬ
おのりぬれぬ 古今

大 古今
大 おのりぬれぬ 誰ぞあつて色よさうに 船をのりては ぬれぬ
おのりぬれぬ 古今

月 古今
月 おのりぬれぬ 誰ぞあつて色よさうに 船をのりては ぬれぬ
おのりぬれぬ 古今

雨 古今
雨 おのりぬれぬ 誰ぞあつて色よさうに 船をのりては ぬれぬ
おのりぬれぬ 古今

雨 古今
雨 おのりぬれぬ 誰ぞあつて色よさうに 船をのりては ぬれぬ
おのりぬれぬ 古今

瞿 古今
瞿 おのりぬれぬ 誰ぞあつて色よさうに 船をのりては ぬれぬ
おのりぬれぬ 古今

瞿 古今
瞿 おのりぬれぬ 誰ぞあつて色よさうに 船をのりては ぬれぬ
おのりぬれぬ 古今

朝 古今
朝 おのりぬれぬ 誰ぞあつて色よさうに 船をのりては ぬれぬ
おのりぬれぬ 古今

朝 古今
朝 おのりぬれぬ 誰ぞあつて色よさうに 船をのりては ぬれぬ
おのりぬれぬ 古今

夜 古今
夜 おのりぬれぬ 誰ぞあつて色よさうに 船をのりては ぬれぬ
おのりぬれぬ 古今

雨 古今
雨 おのりぬれぬ 誰ぞあつて色よさうに 船をのりては ぬれぬ
おのりぬれぬ 古今

夜 古今
夜 おのりぬれぬ 誰ぞあつて色よさうに 船をのりては ぬれぬ
おのりぬれぬ 古今

久 古今
久 おのりぬれぬ 誰ぞあつて色よさうに 船をのりては ぬれぬ
おのりぬれぬ 古今

瞿 古今
瞿 おのりぬれぬ 誰ぞあつて色よさうに 船をのりては ぬれぬ
おのりぬれぬ 古今

隣 古今
隣 おのりぬれぬ 誰ぞあつて色よさうに 船をのりては ぬれぬ
おのりぬれぬ 古今

瞿 古今
瞿 おのりぬれぬ 誰ぞあつて色よさうに 船をのりては ぬれぬ
おのりぬれぬ 古今

右心瞿麦

庭瞿麦

瞿麦滿庭

閑庭瞿麦

荒砌瞿麦

瞿麦副垣

色瞿麦

瞿麦粉之花

袖てに色瞿麦やあれそへ成りかすうも麻麦の心 浮世

庭瞿麦 新法 花のまを培れ多つていふは庭の木の太く接子 ぬね

瞿麦滿庭 我 庭やとい庭も色もどめて今さうりかより接子の 宵相

閑庭瞿麦 我集 かの庭も今さうりかより接子の初夏の花 道を後

荒砌瞿麦 我 荒砌のあれなるをい

瞿麦副垣 我集 垣のまを培れ多つていふは庭の木の太く接子 ぬね

色瞿麦 日 庭のまを培れ多つていふは庭の木の太く接子 ぬね

瞿麦粉之花 日 湯衣花といふは花のまを培れ多つていふは庭の木の太く接子 ぬね

新法 花のまを培れ多つていふは庭の木の太く接子 ぬね

○夏草

くさぶたのこま 喜 花のまを培れ多つていふは庭の木の太く接子 ぬね

高きつる

庭のまを培れ

と接り接子

志もつ草

庭のまを培れ

庭のまを培れ

庭のまを培れ

庭のまを培れ

庭のまを培れ

庭のまを培れ

庭のまを培れ

庭のまを培れ

庭のまを培れ

庭のまを培れ多つていふは庭の木の太く接子 ぬね

庭のまを培れ多つていふは庭の木の太く接子 ぬね

庭のまを培れ多つていふは庭の木の太く接子 ぬね

庭のまを培れ多つていふは庭の木の太く接子 ぬね

庭のまを培れ多つていふは庭の木の太く接子 ぬね

庭のまを培れ多つていふは庭の木の太く接子 ぬね

庭のまを培れ多つていふは庭の木の太く接子 ぬね

庭のまを培れ多つていふは庭の木の太く接子 ぬね

庭のまを培れ多つていふは庭の木の太く接子 ぬね

庭のまを培れ多つていふは庭の木の太く接子 ぬね

庭のまを培れ多つていふは庭の木の太く接子 ぬね

庭のまを培れ多つていふは庭の木の太く接子 ぬね

庭のまを培れ多つていふは庭の木の太く接子 ぬね

庭のまを培れ

庭のまを培れ

志の山麓

萩の原

新乃下ら

梅子乃花

ひらきり

秋の心ま

夏乃心

夏乃心

凡昔夏草

西後夏草

夏草亦

夏草深

夏草深

信太社

秋をこめてかみそりあはれは流ぬる言ふの山麓

萩集

なつみの原をみまらぬ萩の心をこめてかみの原

千尋

花は迷ふそれぞあはれ月夜を満ちてあはれ萩の原

あかり合て萩の原の心まはるるや梅子乃花

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

志の山麓

萩の原

新乃下ら

梅子乃花

ひらきり

秋の心ま

夏乃心

夏乃心

凡昔夏草

西後夏草

夏草亦

夏草深

夏草深

信太社

秋をこめてかみそりあはれは流ぬる言ふの山麓

萩集

なつみの原をみまらぬ萩の心をこめてかみの原

千尋

花は迷ふそれぞあはれ月夜を満ちてあはれ萩の原

あかり合て萩の原の心まはるるや梅子乃花

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

行路夏草

任夏草

野亭夏草

野夕夏草

野外夏草

杜夏草

夏草深

行路夏草

任夏草

野亭夏草

野夕夏草

野外夏草

これら夏草の心まはるるや梅子乃花

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

水辺夏草

夏草夏水

川邊夏草

庭夏草

逐日若藻

水草隔舟

河邊夏深

旅行若藻

野若草

蘇集 夕暮よ志あつくは乃曉くさるれ秋也いほなる秋後水

白川七代 夏草のあひひくさるはいほなる秋也いほなる秋後水

郁芳三平 川邊夏草のあひひくさるはいほなる秋也いほなる秋後水

蘇集 庭夏草のあひひくさるはいほなる秋也いほなる秋後水

蘇集 逐日若藻のあひひくさるはいほなる秋也いほなる秋後水

蘇集 水草隔舟のあひひくさるはいほなる秋也いほなる秋後水

蘇集 河邊夏深のあひひくさるはいほなる秋也いほなる秋後水

蘇集 旅行若藻のあひひくさるはいほなる秋也いほなる秋後水

蘇集 野若草のあひひくさるはいほなる秋也いほなる秋後水

蘇集 夕暮よ志あつくは乃曉くさるれ秋也いほなる秋後水

蘇集 夕暮よ志あつくは乃曉くさるれ秋也いほなる秋後水

○ 鴨川

野若草夏深

秋若夏開

草花夏秋

鴨川夏深

鴨川のうら

蘇集 野若草夏深のあひひくさるはいほなる秋也いほなる秋後水

蘇集 秋若夏開のあひひくさるはいほなる秋也いほなる秋後水

蘇集 草花夏秋のあひひくさるはいほなる秋也いほなる秋後水

蘇集 鴨川夏深のあひひくさるはいほなる秋也いほなる秋後水

蘇集 鴨川のうらのあひひくさるはいほなる秋也いほなる秋後水

源文船川

源長船川

源長船川

源長船川

源長船川

源長船川

源長船川

源長船川

源長船川

源長船川

源長船川

源集

大井川文りよのうらふ舟是もよ候なる有 意法

自川七市 ころあまのいさあらくと大井川舟もよ候う舟は 後世意法

れ 夕名もやちとら舟は舟侍へゆらあひやとせり 量之

源集 舟のいさあらく

くひわらう舟まうらふ無火のそくはたつ雲 舟改

源集 ともそののららるる舟のつらとて多程とく舟は 後世意法

源集 大井川雲をも照と教さうと文と舟は無火と日

源集 夕雲のあけつとせとつと事いふは舟は 道之候

源集 廻乃字眼目せり舟とひらり

源集 ともやけぬいさうらふ舟のあちりりも舟は 日

源集 夕名ありふ念の藤を近まら舟の無火とつれそり 日

源集 遠近は船とてわらうら舟

源集 大井川のせり細代まうら舟長とせり舟は 意法

源集 大井川雲をも照と教さうと文と舟は無火と日

○照射

あぐら松

舟

あぐら松は火串し松は火とて舟は火とて 法性意法

舟は火とて舟は火とて舟は火とて舟は火とて 意法

舟は火とて舟は火とて舟は火とて舟は火とて 意法

舟は火とて舟は火とて舟は火とて舟は火とて 意法

舟は火とて舟は火とて舟は火とて舟は火とて 意法

舟は火とて舟は火とて舟は火とて舟は火とて 意法

舟は火とて舟は火とて舟は火とて舟は火とて 意法

舟は火とて舟は火とて舟は火とて舟は火とて 意法

舟は火とて舟は火とて舟は火とて舟は火とて 意法

舟は火とて舟は火とて舟は火とて舟は火とて 意法

舟は火とて舟は火とて舟は火とて舟は火とて 意法

花のより火丈木乃をきやく一乃松ははり一やふ執るよ乃灯付美
とりのせき湯石 青の山をく鹿よんせよとりのせきもれ入く 山美
麻のちと あかどろ ちりのひかりの鹿乃ちとつていふと筋は

林の法 新後木 射火の光よと合するんこ
信太社 ちりのひかりの鹿乃ちとつていふと筋は

村人の入社 れ 村人の入社よまきつた案の別て美社の照射より 雅有
ちり男 れ ちり男乃社も照射してりあは美社あや 居者
ちり男 れ ちり男乃社も照射してりあは美社あや 居者

書のおぐ れ ちり男乃社も照射してりあは美社あや 居者
ちり男 れ ちり男乃社も照射してりあは美社あや 居者

あらし男 れ ちり男乃社も照射してりあは美社あや 居者
あらし男 れ ちり男乃社も照射してりあは美社あや 居者

・村人乃つて照射 れ ちり男乃社も照射してりあは美社あや 居者
あらし男 れ ちり男乃社も照射してりあは美社あや 居者

暖更照射

照射及暖

照射欲唄

夜々照射

連夜照射

深山照射

山中照射

峰照射

連峰照射

赤集 文の字んあ 暖照射よておけ
交とのこ乃下書よ照射して暖更の照とそ知 行宗

照射よまけり乃社も照射してりあは美社あや 居者

夜々照射 れ ちり男乃社も照射してりあは美社あや 居者

連夜照射 れ ちり男乃社も照射してりあは美社あや 居者

深山照射 れ ちり男乃社も照射してりあは美社あや 居者

山中照射 れ ちり男乃社も照射してりあは美社あや 居者

峰照射 れ ちり男乃社も照射してりあは美社あや 居者

連峰照射 れ ちり男乃社も照射してりあは美社あや 居者

原照射
樹陰照射
處々照射

○ 虫

位何ころ
ととりとく
管蠶ふ
とりに川光
ふよゆうふ
あふれりづ

注
建保二年(西暦)八月十九日
照射するはくは和やまの流るる河をさかえりて
とりまてくはやまの流るる河をさかえりて
後相公

建保二年(西暦)八月十九日
この川はわたりはけりて流るる河をさかえりて
とりに川光
ふよゆうふ
あふれりづ

社あはれし
社乃雲
雲るる
るるの雲
雲と知出

和泉式部
社あはれし
社乃雲
雲るる
るるの雲
雲と知出

あふれりづ

あつちぬき
とがる雲
くらす雲

あつちぬき
とがる雲
くらす雲

夕のり

夕のりは夕の草のやうなる

荒磯のひり

荒磯のひりは荒磯のひり

りる曇

りる曇はりる曇

こぼれぬあ

こぼれぬあはこぼれぬあ

とぞれけ

とぞれけはとぞれけ

川とぞりけ

川とぞりけは川とぞりけ

けよあがる

けよあがるはけよあがる

雲は細の火

雲は細の火は雲は細の火

とぞいよる

とぞいよるはとぞいよる

あひよりゆる

あひよりゆるはあひよりゆる

草のりる

草のりるは草のりる

草のりる

草のりるは草のりる

空ろがくれ

空ろがくれは空ろがくれ

うらやま

うらやまはうらやま

とぞあ

とぞあはとぞあ

清い

清いは清い

月影雲花

月影雲花は月影雲花

雨申曇

雨申曇は雨申曇

曇似あ

曇似あは曇似あ

曇近花

曇近花は曇近花

曉曇

曉曇は曉曇

夕曇

夕曇は夕曇

夜曇

夜曇は夜曇

涼秋曇

涼秋曇は涼秋曇

曇初秋

曇初秋は曇初秋

新古今

四十五

谷雲
故溪雲

洞底雲火

野雲

野雲似水

野亭雲火

水雲

橋雲

管火照橋

雲上水上

雲照回流

白川七
おろろとも舟子若こそせしけりや雲の夕暮れ秋
後初夜後
谷あうりゆる雲也世中乃らうとこいひとけひの秋
為道
故溪いふりぬる谷こ

日 橋つづる若のよよりこし初て雲流く谷下
水雲流
善とこゆふそれる谷の雲はのれ雲とさるもか
道を後

日 白雲は秋の川程の雲は舟の乃雲も玉を
夜
雲ういさあ風乃あじおまつれがさか
の乱をり
秋之

千々 地乃西又浮小雲の早舟敷あうらう
ひ文よこつて
為平
橋の乃こころ川は雲雲流ぬあひや
今もあらん
秋長

文相十三十一 雲のつらさ水あうり
り雲いづら
のさる
世の人
様を

集 回流の雲がとまされて
りめくるといふ
山川の雲根あうり
水の流れと照
りたる
とさる
後初夜後

池雲

沢雲

沼雲

江雲

江上雲花

江上雲多

滝下雲

河雲

新川雲

海上雲

海辺夕雲

湖上雲火

湖辺雲多

白川七
おろろとも舟子若こそせしけりや雲の夕暮れ秋
後初夜後

池雲
おろろとも舟子若こそせしけりや雲の夕暮れ秋
後初夜後

沢雲
おろろとも舟子若こそせしけりや雲の夕暮れ秋
後初夜後

沼雲
おろろとも舟子若こそせしけりや雲の夕暮れ秋
後初夜後

江雲
おろろとも舟子若こそせしけりや雲の夕暮れ秋
後初夜後

江上雲花
おろろとも舟子若こそせしけりや雲の夕暮れ秋
後初夜後

江上雲多
おろろとも舟子若こそせしけりや雲の夕暮れ秋
後初夜後

滝下雲
おろろとも舟子若こそせしけりや雲の夕暮れ秋
後初夜後

河雲
おろろとも舟子若こそせしけりや雲の夕暮れ秋
後初夜後

新川雲
おろろとも舟子若こそせしけりや雲の夕暮れ秋
後初夜後

浦蚊を火

里蚊を火

田舎蚊を

隣蚊を火

家々蚊を火

蚊を火

○蓮

いとし乃きハ
お乃初い海
こそりけ蓮

十代
里人の林とてあそびこひ小をいかりの風やりの為兼
夜集
りやとて浦の夕の夕とひよる燈をともす
日
けはあつとて夕の夕をいかりの里人
道中夜
ころとて燈をともす
内集
りやとて燈をともす
夜集
りやとて燈をともす

五律
いとし乃きハ
お乃初い海
こそりけ蓮
後九条
百十六

大寺れ
池乃蓮

千中乃蓮

蓮ひくろ

入江乃蓮

かびら蓮

とまのあひ

蓮乃浮心

口色乃蓮

法乃蓮

ひひ乃蓮

沼乃蓮

心乃蓮

蓮乃系

百代
大寺れ
池乃蓮
千中乃蓮
蓮ひくろ
入江乃蓮
かびら蓮
とまのあひ
蓮乃浮心
口色乃蓮
法乃蓮
ひひ乃蓮
沼乃蓮
心乃蓮
蓮乃系
後九条
百十六

清く乃芭

蓮葉露

蓮旁薰

池と蓮

池地蓮

近地蓮

蓮後池

蓮形似玉

秋色若雨荷

荷葉露水

荷葉成珠

荷葉似珠

又木 清く乃芭 蓮葉露 蓮旁薰 池と蓮 池地蓮 近地蓮 蓮後池 蓮形似玉 秋色若雨荷 荷葉露水 荷葉成珠 荷葉似珠

歌 清く乃芭 蓮葉露 蓮旁薰 池と蓮 池地蓮 近地蓮 蓮後池 蓮形似玉 秋色若雨荷 荷葉露水 荷葉成珠 荷葉似珠

赤集 清く乃芭 蓮葉露 蓮旁薰 池と蓮 池地蓮 近地蓮 蓮後池 蓮形似玉 秋色若雨荷 荷葉露水 荷葉成珠 荷葉似珠

赤集 清く乃芭 蓮葉露 蓮旁薰 池と蓮 池地蓮 近地蓮 蓮後池 蓮形似玉 秋色若雨荷 荷葉露水 荷葉成珠 荷葉似珠

赤集 清く乃芭 蓮葉露 蓮旁薰 池と蓮 池地蓮 近地蓮 蓮後池 蓮形似玉 秋色若雨荷 荷葉露水 荷葉成珠 荷葉似珠

赤集 清く乃芭 蓮葉露 蓮旁薰 池と蓮 池地蓮 近地蓮 蓮後池 蓮形似玉 秋色若雨荷 荷葉露水 荷葉成珠 荷葉似珠

赤集 清く乃芭 蓮葉露 蓮旁薰 池と蓮 池地蓮 近地蓮 蓮後池 蓮形似玉 秋色若雨荷 荷葉露水 荷葉成珠 荷葉似珠

赤集 清く乃芭 蓮葉露 蓮旁薰 池と蓮 池地蓮 近地蓮 蓮後池 蓮形似玉 秋色若雨荷 荷葉露水 荷葉成珠 荷葉似珠

赤集 清く乃芭 蓮葉露 蓮旁薰 池と蓮 池地蓮 近地蓮 蓮後池 蓮形似玉 秋色若雨荷 荷葉露水 荷葉成珠 荷葉似珠

赤集 清く乃芭 蓮葉露 蓮旁薰 池と蓮 池地蓮 近地蓮 蓮後池 蓮形似玉 秋色若雨荷 荷葉露水 荷葉成珠 荷葉似珠

赤集 清く乃芭 蓮葉露 蓮旁薰 池と蓮 池地蓮 近地蓮 蓮後池 蓮形似玉 秋色若雨荷 荷葉露水 荷葉成珠 荷葉似珠

赤集 清く乃芭 蓮葉露 蓮旁薰 池と蓮 池地蓮 近地蓮 蓮後池 蓮形似玉 秋色若雨荷 荷葉露水 荷葉成珠 荷葉似珠

○氷室

善日い

うごぬ家

ひじろ田

少室乃

松がこ

ひじろ田

さげのや

かりのこ川

かた坂

ふせの少

つぎ井

五社百

善日い

うごぬ家

ひじろ田

少室乃

松がこ

ひじろ田

さげのや

かりのこ川

かた坂

ふせの少

つぎ井

つぎ井

せき入一水

古本記 いづれ乃つちのこころをれりやひまかしてれを初 中務親王
貞徳三年上
せき入一水なりれはるれをそのまはひまか 為家

あきののこぶ

未 ひまのふりて種葉へなりつるふんふん
けふひまのふりてのまはひまか 貞徳三年上

つらるあ

日 ちの月の照りてつらるあ 波のたふれつらるあ 行家

山のあき

日 つらるあひまのつらるあ 山つらるあ 信実

自然よりとら

日 今自然よりとらあき 山つらるあ 信実

ひまのこぶ

日 ひまのこぶのこぶとあき 山つらるあ 信実

氷室凡

百三 氷室凡のこぶとあき 山つらるあ 信実

氷室源

百三 氷室源のこぶとあき 山つらるあ 信実

氷室忘泉

百三 氷室忘泉のこぶとあき 山つらるあ 信実

名所氷室

百三 名所氷室のこぶとあき 山つらるあ 信実

新氷室

百三 新氷室のこぶとあき 山つらるあ 信実

夕氷室

日 夕氷室のこぶとあき 山つらるあ 信実

氷室忘夏

日 氷室忘夏のこぶとあき 山つらるあ 信実

遠い氷室

日 遠い氷室のこぶとあき 山つらるあ 信実

○夕立

夕立の

百三 夕立のこぶとあき 山つらるあ 信実

あきつら

百三 あきつらのこぶとあき 山つらるあ 信実

をこよ近で

百三 をこよ近でのこぶとあき 山つらるあ 信実

きん人さびで

百三 きん人さびでのこぶとあき 山つらるあ 信実

こぼりけさ

百三 こぼりけさのこぶとあき 山つらるあ 信実

よりりこさ

百三 よりりこさのこぶとあき 山つらるあ 信実

夕立の

百三 夕立のこぶとあき 山つらるあ 信実

日影ありし

百三 日影ありしのこぶとあき 山つらるあ 信実

旅夕立 夜集 夕立くらしむるは秋の夜半の月を照らす川を流す

○蟬

うつくし 夜集 海の音もあつらふとてはあつらふとてはあつらふ

秋聲の夢 夜集 山嵐の外西の空を照らす秋聲の西行

初秋の夕 夜集 夕立の音もあつらふとてはあつらふとてはあつらふ

初秋の夕 夜集 夕立の音もあつらふとてはあつらふとてはあつらふ

初秋の夕 夜集 夕立の音もあつらふとてはあつらふとてはあつらふ

初秋の夕 夜集 夕立の音もあつらふとてはあつらふとてはあつらふ

初秋の夕 夜集 夕立の音もあつらふとてはあつらふとてはあつらふ

初秋の夕 夜集 夕立の音もあつらふとてはあつらふとてはあつらふ

おなじき煙 建長八百五十八年 松の煙をたきかへし煙もあつらふとてはあつらふ

おなじき煙 建長八百五十八年 松の煙をたきかへし煙もあつらふとてはあつらふ

おなじき煙 建長八百五十八年 松の煙をたきかへし煙もあつらふとてはあつらふ

おなじき煙 建長八百五十八年 松の煙をたきかへし煙もあつらふとてはあつらふ

おなじき煙 建長八百五十八年 松の煙をたきかへし煙もあつらふとてはあつらふ

おなじき煙 建長八百五十八年 松の煙をたきかへし煙もあつらふとてはあつらふ

おなじき煙 建長八百五十八年 松の煙をたきかへし煙もあつらふとてはあつらふ

おなじき煙 建長八百五十八年 松の煙をたきかへし煙もあつらふとてはあつらふ

おなじき煙 建長八百五十八年 松の煙をたきかへし煙もあつらふとてはあつらふ

おなじき煙 建長八百五十八年 松の煙をたきかへし煙もあつらふとてはあつらふ

おなじき煙 建長八百五十八年 松の煙をたきかへし煙もあつらふとてはあつらふ

凡波蝉音を

凡波の音は凡波の音の如きなり

蝉声無隙

凡波の音は凡波の音の如きなり

朝蝉

朝の音は朝の音の如きなり

夕蝉

夕の音は夕の音の如きなり

山裏蝉

山の音は山の音の如きなり

嶺樹蝉

嶺の音は嶺の音の如きなり

杜蝉

杜の音は杜の音の如きなり

林頭蝉

林頭の音は林頭の音の如きなり

林間蝉多

林間の音は林間の音の如きなり

泉聴蝉

泉の音は泉の音の如きなり

滝边蝉

滝の音は滝の音の如きなり

故心蝉

故心の音は故心の音の如きなり

遠樹蝉

遠樹の音は遠樹の音の如きなり

樹心蝉

樹心の音は樹心の音の如きなり

樹陰蝉

樹陰の音は樹陰の音の如きなり

松蝉

松の音は松の音の如きなり

馬と夕蝉

馬の音は馬の音の如きなり

蝉声空原

空原の音は空原の音の如きなり

蝉声秋近

秋の音は秋の音の如きなり

蝉声滿耳

滿耳の音は滿耳の音の如きなり

映夏蝉声

映夏の音は映夏の音の如きなり

秋の音は秋の音の如きなり

新木夏

五十一

○扇

友のあまぎ
凡乃やどり
扇乃てぞ
未ひろ
糸乃扇
うららの凡
月まこと

白あまぎ
おやめあまぎ
うららの凡

音義 友人
よめたるは夏の扇とてよも秋風の位
凡乃やどり
扇乃てぞ
未ひろ
糸乃扇
うららの凡
月まこと
新六
くつれはるる月まこととて扇こそ
白あまぎ
おやめあまぎ
うららの凡
月まこと
新六
くつれはるる月まこととて扇こそ
白あまぎ
おやめあまぎ
うららの凡
月まこと

さああまぎ
右乃書扇
の凡

新六
目くられ新まきさ
右乃書扇
の凡
さああまぎ
右乃書扇
の凡
さああまぎ
右乃書扇
の凡

扇乃
扇乃秋近
松凡忘扇
国中扇
扇不離手

扇乃
扇乃秋近
松凡忘扇
国中扇
扇不離手
新六
目くられ新まきさ
右乃書扇
の凡
さああまぎ
右乃書扇
の凡
さああまぎ
右乃書扇
の凡

泉之栖

樹陰敷泉

松下泉

向泉竹友

泉之遇友

泉之友交

泉声来枕

對泉庄像

○ 初涼

青々涼葉の

門とぐみ

静かなる涼風の清水やうりまきこぬ秋の凡通の那言

泉之栖 泉之栖志水子秋とよきなり枯すなりとの下れき波 正徹

樹陰敷泉 松の縁の志りの清水枯すよ秋とひくつよ秋とひく 徳正

松下泉 志水の子らりる志水とひいて志水やう枯すなり 正徹

向泉竹友 秋の志井の志と枯ひつそかなり秋も志と枯ん 正徹

泉之遇友 志水とらさるる泉の志なうの秋にけりい志の志は 行宗

泉之友交 志乃の市らうる志水涼とまらふかひるの秋に枯 後光

泉声来枕 音守の志の志の枕と涼なりなりを乃なり水 去後光

對泉庄像 志乃らるる志とらりる秋とひ玉井乃水もえや清心 後光

音高より 志乃らるる志とらりる秋とひ玉井乃水もえや清心 後光

南の志とらるる志とらりる秋とひ玉井乃水もえや清心 後光

とぐみ川に

凡とぐみ

交とて

物とらぬ

為少結ぶ

なつの下に

とぐみこのよ

文凡とぐみ

初涼とて

一本の初涼

涼とて

目とて

目とて

志乃の志とらるる志とらりる秋とひ玉井乃水もえや清心 後光

志乃の志とらるる志とらりる秋とひ玉井乃水もえや清心 後光

志乃の志とらるる志とらりる秋とひ玉井乃水もえや清心 後光

志乃の志とらるる志とらりる秋とひ玉井乃水もえや清心 後光

志乃の志とらるる志とらりる秋とひ玉井乃水もえや清心 後光

志乃の志とらるる志とらりる秋とひ玉井乃水もえや清心 後光

志乃の志とらるる志とらりる秋とひ玉井乃水もえや清心 後光

志乃の志とらるる志とらりる秋とひ玉井乃水もえや清心 後光

志乃の志とらるる志とらりる秋とひ玉井乃水もえや清心 後光

志乃の志とらるる志とらりる秋とひ玉井乃水もえや清心 後光

志乃の志とらるる志とらりる秋とひ玉井乃水もえや清心 後光

志のあしり

そと石

●秋の清きさうら秋風志のぶ秋風・亥なき水・清くくさる久ら也
●あしりさふ ●志のあしりせく
以上度抄

初涼忘夏

毎月初涼

朝初涼

夕初涼

夜初涼

深夜初涼

山初涼

延文市
日とさうら橋乃古橋よれはさうらさみ秋の凡道ひり 女季

芝のよみあけ初涼とら
多夜秋王季五十一
志のあしりさふ初涼とら
千も秋の端よつて初涼とら

志のあしりさふ初涼とら
志のあしりさふ初涼とら
志のあしりさふ初涼とら

志のあしりさふ初涼とら
志のあしりさふ初涼とら
志のあしりさふ初涼とら

志のあしりさふ初涼とら
志のあしりさふ初涼とら
志のあしりさふ初涼とら

志のあしりさふ初涼とら
志のあしりさふ初涼とら
志のあしりさふ初涼とら

志のあしりさふ初涼とら
志のあしりさふ初涼とら
志のあしりさふ初涼とら

志のあしりさふ初涼とら
志のあしりさふ初涼とら
志のあしりさふ初涼とら

志のあしりさふ初涼とら
志のあしりさふ初涼とら
志のあしりさふ初涼とら

麓初涼

林初涼

社初涼

野任初涼

踏初涼

水色初涼

池边初涼

江上初涼

海辺初涼

船初涼

舟名初涼

社外初涼

城外初涼

秋集
あ乃とみ山かり 吹て涼と麓乃志沙と物と
道冬後

社乃吹林の凡の秋の夕日殺りそさうらの夕も
秋冬

夕涼と身あしりさふ初涼とら
秋乃也と此林の下凡
延文秋集

日初涼とら
秋乃也と此林の下凡
延文秋集

是涼と山路の女自とこれ秋と涼とあつれ下陰
秋冬

凡吹川へ涼くさうら波乃まうらととらとせせね
秋冬

志乃紫と秋の秋と吹じてらさうら涼池の夕凡
延文秋集

江川乃入江の巨乃柳陰つれさうら私と涼と里凡
秋冬

久され初涼の音初川あさうらも涼とら
秋冬

涼とさし世とあしり世涼のむと輝と水の水凡
道冬後

われらうらさうら初涼とら
秋冬

五十於川やさうら初涼の声とら
秋冬

志乃初涼とら
秋冬

家々納涼

名所納涼

樹陰納涼

松下納涼

納涼涼亭

舟中涼亭

依月涼亭

吹涼如秋

夏夜涼亭

雲邊吹涼

山家吹涼

松下逐涼

船中吹涼

家集 家々納涼と云ふは、

来り又涼いともなり、

家門のいさゝ小川も通ふ

涼亭

名所の涼亭は、

樹陰の涼亭は、

松下の涼亭は、

舟中の涼亭は、

依月の涼亭は、

吹涼如秋は、

夏夜涼亭は、

雲邊吹涼は、

山家吹涼は、

松下逐涼は、

船中吹涼は、

吹風似秋

逐夜似涼

夜風似秋

林風似秋

松風如秋

松風忘交

松下侍風

松風暑涼

竹風如秋

涼風入簾

水色冷自秋

吹風似秋は、

逐夜似涼は、

夜風似秋は、

林風似秋は、

松風如秋は、

松風忘交は、

松下侍風は、

松風暑涼は、

竹風如秋は、

涼風入簾は、

水色冷自秋は、

水凡如秋

水凡如秋 水凡如秋 水凡如秋

水凡吹凉

水凡吹凉 水凡吹凉 水凡吹凉

水岸如秋

水岸如秋 水岸如秋 水岸如秋

野亭水源

野亭水源 野亭水源 野亭水源

樹陰隣秋

樹陰隣秋 樹陰隣秋 樹陰隣秋

樹陰吹涼

樹陰吹涼 樹陰吹涼 樹陰吹涼

樹陰風來

樹陰風來 樹陰風來 樹陰風來

樹陰流水

樹陰流水 樹陰流水 樹陰流水

樹陰留客

樹陰留客 樹陰留客 樹陰留客

○夏後

水凡如秋 水凡如秋 水凡如秋 水凡如秋

水凡吹凉 水凡吹凉 水凡吹凉 水凡吹凉

水岸如秋 水岸如秋 水岸如秋 水岸如秋

野亭水源 野亭水源 野亭水源 野亭水源

樹陰隣秋 樹陰隣秋 樹陰隣秋 樹陰隣秋

樹陰吹涼 樹陰吹涼 樹陰吹涼 樹陰吹涼

樹陰風來 樹陰風來 樹陰風來 樹陰風來

樹陰流水 樹陰流水 樹陰流水 樹陰流水

樹陰留客 樹陰留客 樹陰留客 樹陰留客

樹陰風來 樹陰風來 樹陰風來 樹陰風來

樹陰流水 樹陰流水 樹陰流水 樹陰流水

樹陰留客 樹陰留客 樹陰留客 樹陰留客

樹陰風來 樹陰風來 樹陰風來 樹陰風來

樹陰流水 樹陰流水 樹陰流水 樹陰流水

後乃せよ

又木 とうて川邊の遊もみりつづ後少んをた後今知

えくつご

日 後らくろくかかぶじの後まうま茶の林もまを 三後茶

かぶせ後ら

日 後らえしちのまごつり後してながむとく 後人の十年のまご後後川流も後ちの末もまよま定家

あつちの林

日 あつちの林と 入る盤打

あさざれ

日 あさざれ 入る盤打

ひらり鏡

日 ひらり鏡 入る盤打

なうらえぬ

日 毎り二後 入る盤打

狩らちのま

日 毎り三年市 入る盤打

麻のたれぬ

日 毎り三年市 入る盤打

川端まごつ

日 毎り三年市 入る盤打

後ちとつり

日 毎り三年市 入る盤打

人のまご

日 毎り三年市 入る盤打

たのちまご

日 毎り三年市 入る盤打

とまごまご

日 毎り三年市 入る盤打

千世ののり

日 毎り三年市 入る盤打

かたし

日 毎り三年市 入る盤打

なまご

日 毎り三年市 入る盤打

あつち

日 毎り三年市 入る盤打

あつち

日 毎り三年市 入る盤打

あつち

日 毎り三年市 入る盤打

あつち

日 毎り三年市 入る盤打

あつち

日 毎り三年市 入る盤打

あつち

日 毎り三年市 入る盤打

あつち

日 毎り三年市 入る盤打

あつち

日 毎り三年市 入る盤打

夜夏核

同 夏よりこの夜核川系より人の遊(遊)り通ふ秋凡(凡)日

杜夏核

同 本流の小河を清くは核より杜のまを流るる清(清)道を夜

河夏核

十(十) 秋風たひく流らるゆふ川夕波(夕)きて夜核(核)は清(清)葉

家々夏核

同 家々ありありの村(村)なる夜(夜)核(核)せぬ道(道)を夜(夜)

庭夏核

同 庭(庭)より涼(涼)風(風)を本(本)流(流)もいりて夜(夜)核(核)のゆせ(ゆ)て(て)三(三)徹(徹)

貴姓夏核

同 貴(貴)姓(姓)もいりて(て)夜(夜)核(核)もいりて(て)夜(夜)核(核)のゆ(ゆ)せ(せ)て(て)三(三)徹(徹)

名所夏核

同 名(名)所(所)もいりて(て)夜(夜)核(核)もいりて(て)夜(夜)核(核)のゆ(ゆ)せ(せ)て(て)三(三)徹(徹)

荒和核

同 荒(荒)和(和)もいりて(て)夜(夜)核(核)もいりて(て)夜(夜)核(核)のゆ(ゆ)せ(せ)て(て)三(三)徹(徹)

濃荒和核

同 濃(濃)荒(荒)和(和)もいりて(て)夜(夜)核(核)もいりて(て)夜(夜)核(核)のゆ(ゆ)せ(せ)て(て)三(三)徹(徹)

六月核

同 六(六)月(月)もいりて(て)夜(夜)核(核)もいりて(て)夜(夜)核(核)のゆ(ゆ)せ(せ)て(て)三(三)徹(徹)

名越核

同 名(名)越(越)もいりて(て)夜(夜)核(核)もいりて(て)夜(夜)核(核)のゆ(ゆ)せ(せ)て(て)三(三)徹(徹)

玉(玉) 凡(凡)流(流)る(る)川(川)の(の)夜(夜)乃(乃)更(更)り(り)て(て)夕(夕)々(々)れ(れ)り(り)て(て)社(社)を(を)流(流)る(る)葉(葉)行(行)

